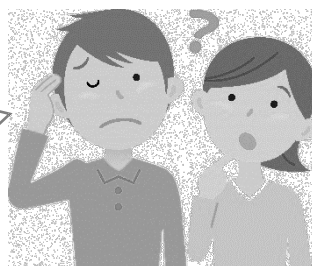


# 1.このパンフレットの目的と活用方法

高齢化や少子化で大変だといわれているけど、それって一部の地域の問題ではないの？

地域課題の解決には、市民もかかわることが必要といわれるけど、それって本当は行政の仕事ではないの？

地域課題を解決するために、ほかの地域でやっていることをマネしてもうまくいかないのはなんでだろう



地域の活動と専門職の仕事は、役割が違うから、一緒に取り組むのはむずかしいんじゃないかなあ？

## 1 地域福祉の現状と課題

私たちが暮らす地域社会は、人口減少が進み、超高齢社会に突入しています。さらに、高齢者世帯を中心に単身世帯が多くを占めるようになり、さまざまな生活課題を生むようになってきました。

例えば…

日常生活で困りごとが増えた一人暮らし高齢者、認知症の高齢者を障がいのある家族が支えている世帯、複合的な生活課題を抱えた家族や、その家計を支えるために仕事をしながら介護もしなければならない家族など、奮闘しなければならない状況が広がっています。

これらの課題に対応していくためには…

福祉や介護の制度・サービスをさらに充実すると同時に、市民主体の地域福祉活動が重要になってきます。それは、課題を抱えた人々に対する日常的で具体的な支援を市民が担うということに留まらず、地域に暮らすできるだけ多くの市民が自分たちの地域の課題を知り、その現状を社会に発信し、そして自らも解決に向けた取り組みにかかわることです。

しかし…

近年、町内会や地域自治組織等の活動に参加する人が少なくなり、継続して地域福祉活動を行うことが難しくなっています。

その一方で、災害時には多くのボランティアが活躍したり、興味や関心を同じくする仲間が集まった活動は活発に行われたりしています。

このことから、これからは、地域自治組織等の活動と一緒にその他のボランティア活動なども相互に協力して取り組むなど、多様な地域福祉活動の展開が求められています。

## 2 「地域福祉カルテ」を活用した市民主体の地域福祉活動

多様な地域福祉活動を展開するためには、次のことが重要です。

### ① 自分の暮らす地域の現状や課題を知ること

⇒ 普段、私たちは、自分の日常生活にかかわる機会の少ない福祉課題（例えば、若い世代にとっての高齢世帯の課題、障がいのある人がいない家族にとっての障がい者の課題、など）は、なかなか知ることができにくいものです。また、高齢化の進展や地域の人々の意識の変化など、目に見えにくい課題も気づきにくいものです。

### ② 地域福祉活動を通じて生活課題や地域課題に対応するために必要な情報を知ること

⇒ 市民が課題に気づき、地域福祉活動で対応する必要性を理解した後、具体的な生活課題や地域課題の解決に向けて、何に取り組まなければならないかを考えることが必要です。その際には、地域福祉活動だけでは対応できない課題解決に取り組まなければならないこともあり、医療や福祉の専門職と連携するための基盤となる地域の福祉情報の活用と共有が重要です。

つまり…

課題解決に向けた地域福祉活動を行うためには、地域にかかわる情報の理解と、専門職との共有・活用が求められるのです。この地域にかかわる情報を整理したものが「地域福祉カルテ」です。

このパンフレットは、「第2期廿日市市地域福祉計画」で示している基本理念「つながりあい 一人ひとりが自分らしく暮らせるまち はつかいち」の実現に向け、多様な主体が役割分担しながら、地域福祉の現状や課題を共有し、行動するためのツールとして作成した「地域福祉カルテ」の活用について、その意味や使い方を示したものです。